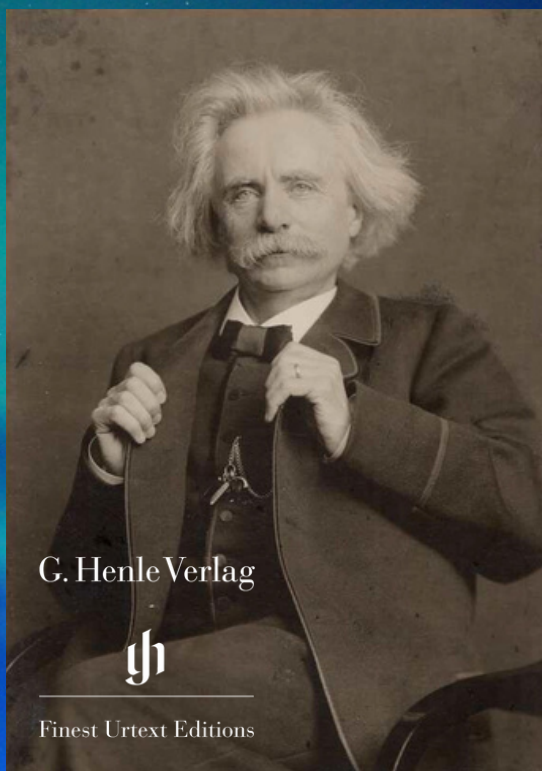


E. グリーグ

ピアノ協奏曲 イ短調 OP. 16



G. Henle Verlag



Finest Urtext Editions

この作品は...

- グリーグ唯一のピアノ協奏曲です。
- 1858年、音楽院に在学中のグリーグは、クララ・シューマンが夫ローベルト・シューマンのピアノ協奏曲イ短調を演奏するのを聞きました。これに触発され、ピアノ協奏曲（やはりイ短調）の作曲に至りました。作品の完成はそれから10年後でした。
- グリーグとフランツ・リストは1870年にローマで会い、感銘を受けたリストはグリーグに改善のための提案をしました。
- 協奏曲は大成功でした。グリーグは頻繁に自ら演奏しました。1907年に亡くなるまで、この作品を少なくとも7回改訂しました。しかし根本的な変更は加えられませんでした。

ヘンレ版について

- 1869年から1907年までの、グリーグによる改訂すべてを考慮しています。
- ブライトコプフ&ヘルテル社との協力により、この版のオーケストラ譜が提供されています。



音楽的な特徴：

- 壮大な冒頭部分で下降を続ける和音のパッセージは、シューマンのピアノ協奏曲を模範にしていることを示しています。
- グリーグはソロの妙技、古典ロマン派の交響曲、ノルウェーの「民謡調」を互いに関連させています。たとえば第1楽章と第2楽章では、ノルウェーの民族舞踊であるハリングのリズムが取り入れられています。

面白い事実

- 作曲家・音楽評論家のフーゴ・ヴォルフは、同業者に対しての妥協ない評論で知られていました。彼はグリーグのピアノ協奏曲を「コブラを寝かしつけて夢の中へ誘い込んだり、調教されたクマのリズム感を呼び覚ますのに十分だが、コンサートホールには適していない」と評価しました。